

R5 鈴鹿サーキット (三重県)

エントリー台数 24台
観客動員数(土・日合計) 21,500人

10/31(土)晴れ 公式予選 レース1 15位(タイム:2'08"329) レース2 14位(タイム:2'08"401)

11/ 1(日)晴れ 決勝レース レース1(14周) 14位
晴れ 決勝レース レース2(16周) 11位

合計獲得ポイント **23P**
ポイントランキング **20位**

■ 限定復活した「エスパルスドリームレーシング」

エスパルスドリームレーシングが1年ぶりに復活した。昨年で全日本フル参戦を卒業した生形秀之は、EWC世界耐久選手権参戦を目指していた。しかしコロナ禍の影響を受け今年は断念。鈴鹿8耐へのエントリーも予定していたが中止となったこともあり、今回の最終戦MFJグランプリにスポット参戦することを決意。

今年、全日本ではWestPower・S-SPORTS・SUZUKIのゼネラルマネージャーとしてST1000クラスに津田拓也選手を走らせていたが、それとは別に体制を作らなければ参戦はできなかったため、各所に協力を仰ぎチームが完全復活した。また、昨年の鈴鹿8耐からご支援いただいている株式会社アイ・テック様にタイトルパートナーとなっただき、エスパルスドリームレーシング・ITECとしてJSB1000クラスにエントリーした。

2週間前にスポーツ走行を走ったが、市販タイヤ、TCなしという条件だったため、できたのは肩慣らし程度。レースウィークに入り、木曜日の特別スポーツ走行が本当の意味でスタートとなった。まずは、ライディングの感覚を取り戻しながらマシンのセットアップ。公式予選では、自己ベストには届かなかったが2分08秒台でレース1が15番手、レース2が14番手となる。

<決勝レース1>14周で争われたレース1。スタートでポジションを上げたが、4周目に柳川選手にかわされる。何とか抜き返したいところだったが、以前から抱えている腕上ガリの症状が出てしまい、そのまま14位でチェッカーフラッグを受けた。

<決勝レース2>レース1より2周多い16周で行われたレース2では、マシンのフィーリングもよく10番手を走っていたが、やはり腕上ガリの症状が出るとペースを上げることができない。トップ10でフィニッシュしたいところだったが、最終ラップにかわされてしまい悔しい11位。レースの楽しさ、難しさ、悔しさを味わい、その魅力をあらためて感じたレースとなった。

<生形秀之コメント>

「今回の全日本鈴鹿への参戦は、来年へのステップというか“再スタート”という位置付けでエントリーさせていただきました。まずは、ご協力いただいた多くの皆さんに感謝申し上げます。

1年振りのレースはレース感、フィジカル、テクニクすべてにおいて「レースに出ていないと保てない」ことを実感として感じました。簡単ではなかったですが、みんなが集まってくれたので楽しむことができましたし、レースの魅力を再認識できました。ここからまた“再スタート”させていただきます。引き続き、生形秀之にお付き合いいただければ幸いです。よろしくお願いいたします」



PARTNERS

